

オンライン朝会「絵本の部屋」 9 / 4

先週から2学期が始まりました。みなさんが元気に登校してきて、楽しそうに過ごしている姿を見て、本当に安心しています。この2学期も、楽しく、安心して、安全に過ごせる学校を、みなさんと一緒に作っていきたいと思います。

さて、夏休みは、いつもより多くの本を読んだかと思います。先週金曜日にも、図書館を使った調べる学習コンクールの作品を、さっそく学級のみんなで見合ったり、紹介し合ったりしているクラスがありました。読書感想文もあり、本への興味や関心が高まったのではないのでしょうか。

学校でも、夏休み中に、学校図書館を少しだけ、改造しました。まずは、今見ているこの写真。職員室前の廊下から学校図書館に行く、アーチを作りました。そして、このアーチをくぐった左側のドアの中に、絵本の部屋を作りました。これからきれいに整理していく予定ですので、楽しみにしてください。

ただし、この写真にあるように、絵本の部屋へ入るところには、印刷機などいろいろな機械が置いてあります。ここに入ってしまうと、とても危ないですね。これからルールなどを決めていきますので、先生のお話をよく聞いて、安全に使うようにしてください。

そして、もう一つ。校長先生の部屋の前に、このような本棚を置きました。校長先生の家にあったものから、みんなに読んでほしいなと思う本を、並べています。ここにある本も、学校図書館の本と同じように、自由に読んでください。校長先生に言えば、借りることもできます。

今ここにある本の一つ一つの内容はお話をする時間はありませんが、表紙を見ながら、少しだけ紹介します。

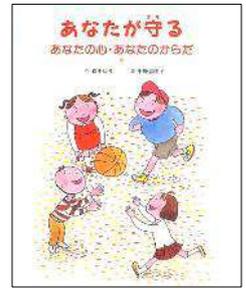
(略)

ときどき、本を替えていきますので、読んでみたいなと思う本があったら、ぜひ手に取ってみてください。

「あなたが守る あなたの心・あなたのからだ」

童話館出版 (1997/9/1) 森田 ゆり (著), 平野 恵理子 (イラスト)

自尊、人権についての教育をよりどころに、いじめ、性的虐待、誘拐など、子どもへの暴力を、子どもが自分で防ぐ具体的な方法を、イラストやわかりやすい文章を使って説き明かす。アメリカで開発された CAP(子どもへの暴力防止)教育プログラムを、子どもに直接語る紙上ワークショップ。



「いのちのおはなし」

講談社 (2007/1/11) 日野原 重明 (著), 村上 康成 (イラスト)

95歳のわたしから、10歳のきみたちへ 「いのちは、どこにあると思いますか?」「いのち」や、いのちをどうつかおうかと決める「ところ」は見えませんが、見えないものこそ大切にすべきです。空気は見えませんが、人が生きるのに大切だということに似ています。――<あとがきより>



「あさがお」

金の星社 (2011/6/10) 荒井 真紀 (著, イラスト), 高橋 秀男 (監修)

さいた! さいた! 自然のふしぎにみちたアサガオの一生を、美しい細密画で描いた絵本です。写真よりもリアルな一瞬や、息をのほむほどドラマチックな風景が広がります。小学校1年生のアサガオ観察にも、役立つヒントがいっぱい!。



「ひまわり」

金の星社 (2013/6/27) 荒井 真紀 (著, イラスト)

ひまわりの たねを まいてみましょう。はるを まっていた ちいさないのちが、しずかに めを さまします。荒井真紀がヒマワリの一生を美しい細密画で描いた絵本。「あさがお」に続く、自然の不思議、命のつながりを描く絵本第2弾。



「エリカ 奇跡のいのち」

講談社 (2004/7/14) ルース・バンダージー (著), ロベルト (イラスト)

わたしが 1944 年に生まれたことはたしかです。でも、誕生日がいつであるのかはわかりません。生まれたときにつけられた名まえもわかりません…。お母さまは、じぶんは「死」にむかいながら、わたしを「生」にむかってなげたのです。第2次世界大戦中のドイツで奇跡的に生きのびた、ひとりの女性の物語。小学校中級 ~



「木を植えた男」

あすなる書房 (1989/12/1) ジャンジオノ (著), フレデリック (イラスト)

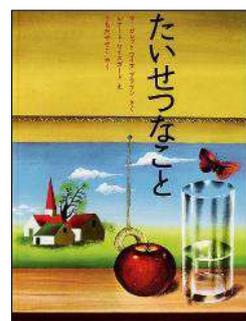
南仏プロヴァンスの荒れ地に、人知れず木を植えた男がいた。一日に 100 個のどんぐりを植え、無事に育つのがその 10 分の 1 ほど。時には苗が全滅することもある。絶望も、二度の大きな戦争も物ともせず、30 年以上に渡る長き年月、ひたすらに自分の仕事に打ち込んだ男のもたらしたものは?



「たいせつなこと」

フレーベル館 (2001/9/1) マーガレット・ワイズ (著), レナード (イラスト)

世界中でながく愛されつづけている『おやすみなさいのほん』のマーガレット・ワイズ・ブラウンとカルデコット賞受賞画家のレナード・ワイズガードのコンビがおくる一冊。日々、目にうつるものたちを新鮮なおどろきをもって自由にとらえたこの本は、1949 年に最初に出版されて以来おおくの人々によみつがれている。



「ちょっとだけ」

福音館書店 (2007/11/15) 瀧村 有子 (著), 鈴木 永子 (イラスト)

弟が生まれて、なっちゃんはお姉さんになりました。お母さんは赤ちゃんのお世話で忙しいので、いつもなっちゃんの要求に応じてあげるといふ訳にはいかなくなりました。そこで、なっちゃんはいろんなことを自分ひとりでやってみます。お姉さんになったからと頑張るなっちゃんですが、眠くなった時だけは、どうしてもお母さんに甘えたくります。お姉さんになったことで感じる切なさ、そしてそれを乗り越えることで成長していく子どもの姿を母親の深い愛情とともに描いています。



「ふくしまからきた子」

岩崎書店 (2012/3/8) 松本 猛 (著), 松本春野 (著, イラスト)

広島市にすむ小学生で、サッカーが大好きなだいじゅ。原発事故をきっかけに母の実家、広島市にひっこしてきたまや。ふたりの交流をつうじて、原発と、私たちの未来をかんがえる絵本。



「わたしのいちばん あのこの1ばん」

ポプラ社 (2012/9/11) 薫くみこ (翻訳)

バイオレットはなんでもだれより1ばん。はしるのもおしゃべりも…。それってすごいなっておもうけど、わたしはなんだかもやもやしてるの。わたしは1ばんにはなれないけど、それってすごくないってことなのかな。1ばんがいちばんいいのかな。



「はやくはやくっていわないで」

ミシマ社 (2010/10/30) 益田ミリ (著), 平澤一平 (イラスト)

「どうしていそぐ」「いそいでどこいく」「ひっぱらないで」「おさないで」—きこえていますか?この子の声、あの人の声、わたしの声…。この絵本には、いまを生きるわたしたちがつい忘れがちな、とても大切なメッセージがつまっています。となりにいるお子さん、大切に思うひと、そしてこの本を手にする皆さん自身の心の声でもあります。この声に耳をふさぐことなく、しっかり耳をかたむけてみてください。



「いいから いいから」

絵本館 (2006/10/31) 長谷川 義史 (著)

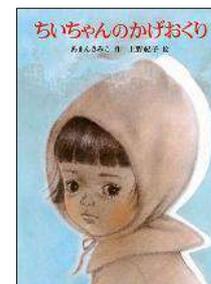
突然やってきたカミナリの親子。にもかかわらず「いいからいいから」と、もてなすおじいちゃん。カミナリにおへそをとられても「いいからいいから」のおおらかさ。肩のちからがぬけることまちがいなし。「いいから いいから」なんて気持ちのよいことば。ころがほぐれていきます。



「ちいちゃんのかげおくり」

あかね書房 (1982/8/1) あまん きみこ (著), 上野 紀子 (イラスト)

第2次世界大戦の悲惨さを描く物語。ちいちゃん一家の戦争が、やさしく悲しく描かれます。体の弱いお父さんを戦争に送り、家族3人の暮らしが始まったある夏のこと、ちいちゃん一家は空襲に出会います。空襲で焼け出されたちいちゃんは一人ぼっち。



「焼けたあとの おにぎり」

国土社 (2020/2/25) うるしばらともよし (著), よしだるみ (イラスト)

キヨシの住んでいた東京の下町は、東京大空襲で焼け野原となった。食べるものもままならない戦後直後、おばあちゃんが持たせてくれたのは、5つのおにぎり。おにぎりをリュックに入れ、焼けあとをさまようキヨシが見つけたものとは。

